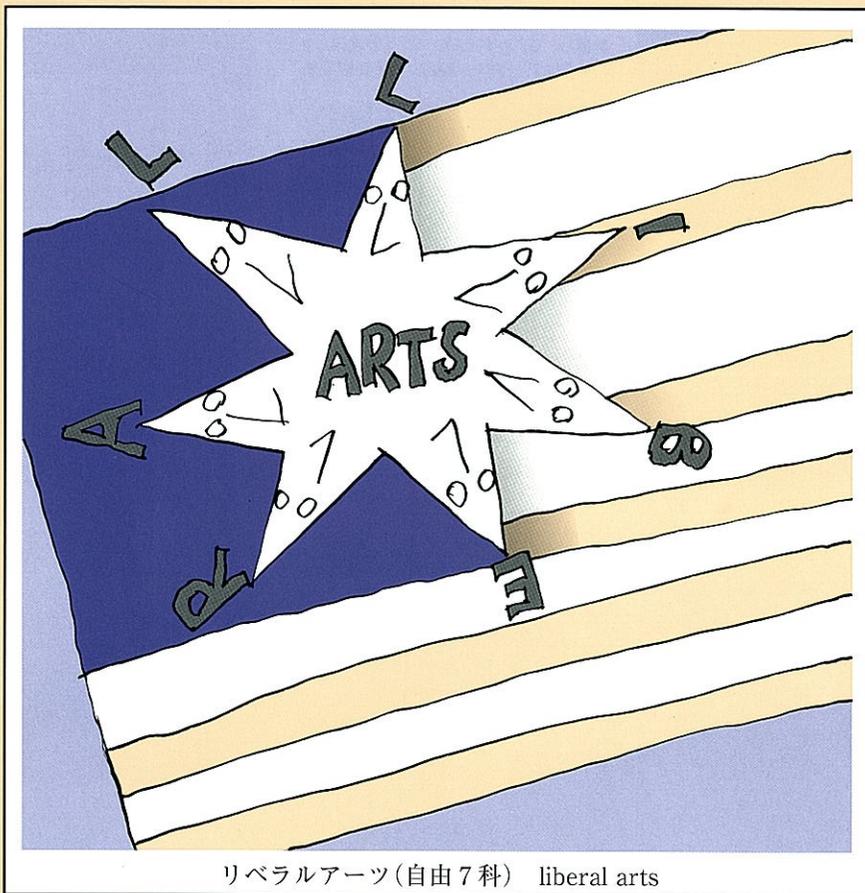


Medical Education (Japan)

医学教育

総説 1 編，報告 4 編，委員会報告 1 編

招待論文，特別企画：COI（利益相反）についての座談会



リベラルアーツ(自由7科) liberal arts

Vol.42 No.5 2011

編集発行 日本医学教育学会
(URL:<http://jsme.umin.ac.jp>)

発売 株式会社 篠原出版新社

医学教育 2011, 42(5): 283~287

報告

Medical professionalism 教育の一環としての
白衣式における誓いの言葉プロジェクト戸谷 遼^{*1} 奥山 訓子^{*2} 神山 圭介^{*2}
安井 哲也^{*2} 長谷川 奉延^{*2} 平形 道人^{*2}
渡辺 賢治^{*2}

要旨:

- 1) 慶應義塾大学医学部では、臨床実習前の4年生を対象に、白衣式は2006年、学生による「誓いの言葉プロジェクト」は2007年から、Medical professionalism 教育の一環となることを期待して導入されている。
- 2) 2009年度の活動を通し、誓いの言葉プロジェクトは学生側からも高い満足度が得られ、また84%の学生が今後も継続していくべきと回答した。
- 3) 誓いの言葉プロジェクトを継続していくにあたり、如何にして多くの学生を積極的に活動へ参加させていくかが、今後の課題として挙げられた。

キーワード: 白衣式, 誓いの言葉プロジェクト, プロフェッショナリズム

Oath-writing project for the white coat ceremony as part
of professionalism educationRyo TOYA^{*1} Noriko OKUYAMA^{*2} Keisuke KOUYAMA^{*2}
Tetsuya YASUI^{*2} Tomonobu HASEGAWA^{*2} Michito HIRAKATA^{*2}
Kenji WATANABE^{*2}

Abstract

- 1) The Keio University School of Medicine introduced a "white coat ceremony" in 2006 and the taking of an oath written by medical students in 2007 for fourth-year students as part of medical professionalism education just before the start of clinical clerkships.
- 2) Through activities in 2009, the oath-writing project was highly evaluated by students, and 84% of students felt that Keio University should continue the project.
- 3) A challenge for the future is finding new ways to encourage more students to participate in the project.

Key words: white coat ceremony, oath-writing project, professionalism

*1 慶應義塾大学医学部6年生, 白衣式・誓いの言葉実行委員会2009年度代表, Sixth grade student of Keio University School of Medicine, Representative of oath-creating committee in 2009

*2 慶應義塾大学医学部医学教育者育成委員会 (FD委員会), Faculty Development Committee, Keio University School of Medicine

〒160-8582 東京都新宿区信濃町35番地

受付: 2011年2月1日, 受理: 2011年8月5日

はじめに

白衣式は White Coat Ceremony の邦訳であり、病棟・外来において新たに臨床実習を開始する学生に対して、教員らにより白衣が授与される式典である。1993年、コロンビア大学医学部においてアーノルド P. ゴールド教授らが主体となって初めて白衣式が行われてから、現在ではアメリカの90%以上の医学校において開催されている¹⁾。アメリカの白衣式では多くの場合、学生達は現代版ヒポクラテスの誓いを詠唱するが、学生や教員自身が独自に作成したものを宣誓する医学校も一部存在する²⁾。

慶應義塾大学医学部においても、2007年の第2回白衣式より、自分達の理想とする医師の在り方を考え、自らの言葉で表現する、「誓いの言葉プロジェクト」を開始しており、この「誓いの言葉プロジェクト」は卒前 medical professionalism (プロフェッショナリズム) 教育の一環になるものとして期待されている。

目的

2009年度誓いの言葉作成の過程を通し、誓いの言葉プロジェクトがプロフェッショナリズム教育として学生にどう捉えられたか、今後このプロジェクトを継続していくにあたり何を改善していくことが望ましいのか、を検討・考察した。

対象・方法

2009年度誓いの言葉プロジェクトは慶應義塾大学医学部4年生99名を対象とした。まず、2009年7月に教員・昨年度の学生実行委員によるオリエンテーションが実施され、同時に白衣式に対する意識調査および学生実行委員の募集も行われた。集まった6名の実行委員は、同年10月に学年全体へ「優れた医師像」についての記述形式のアンケート、11月に患者支援活動を行う市民、およびコメディカルの方に対する、「社会の求める医師像」についてのインタビューを行った。「優れた医師像」についてのアンケート結果およびインタビュー内容は学年掲示板に記事としてまとめられ、学年全体にフィードバックされ

た。12月からは実行委員を中心とした学生達が、学年全体の目指すべき医師像として、誓いの言葉をまとめるため、歴代の学生実行委員、教員らと交えた討論をミーティングおよびメーリングリスト上で行った。

これらの活動を元に、2010年3月に誓いの言葉を完成させ、同月27日に白衣式を迎え、作成した誓いの言葉を宣誓した。白衣式後、同年7月に実行委員を務めた学生6名に対し、誓い言葉プロジェクトについて感想・反省を求めるアンケートを行った。感想・反省アンケートにて得られた意見を基に、学年全体に対して白衣式・誓いの言葉プロジェクトについての意識調査を再度実施した。

結果

まず、2009年7月のオリエンテーション時に行われた意識調査の結果では、図1に示すように、白衣式の認知率は94%と極めて高く、白衣式開催の是非については、71%が賛成と答えた。一方で、反対もしくは否定的な解釈をしている学生も29%存在した。

次に、10月に実施した学年全体に対する「優れた医師像」についての記述形式のアンケート回答例を提示する。「人柄はもちろんだが、確かな腕を持つドクター」、「この人に診てもらったら何時間でも待てる」、「良い医師は経験年数を必須とし、努力を怠らず、知識を吸収し続ける姿勢を持つ」、「もう助からないかもしれない状況の中でも、一生懸命に治療する」など、知識・技量のみならず、患者に対する姿勢・態度も重要視されていることが判明した。

さらに、11月には医師-患者-コメディカルの関係性の中で、どのような医師像が社会から求められているのかを調べるため、患者の代表として「納得して医療を選ぶ会」代表の今井聡美氏、コメディカルの代表として慶應義塾大学病院救急部看護師(当時)の仲亀聖子氏に対して、実行委員および学年有志によるインタビューを行った。インタビューの中で患者・コメディカル側の立場から特に強調されていたのは「医師になると同時に、人間としての成長も目指す」ことであり、優

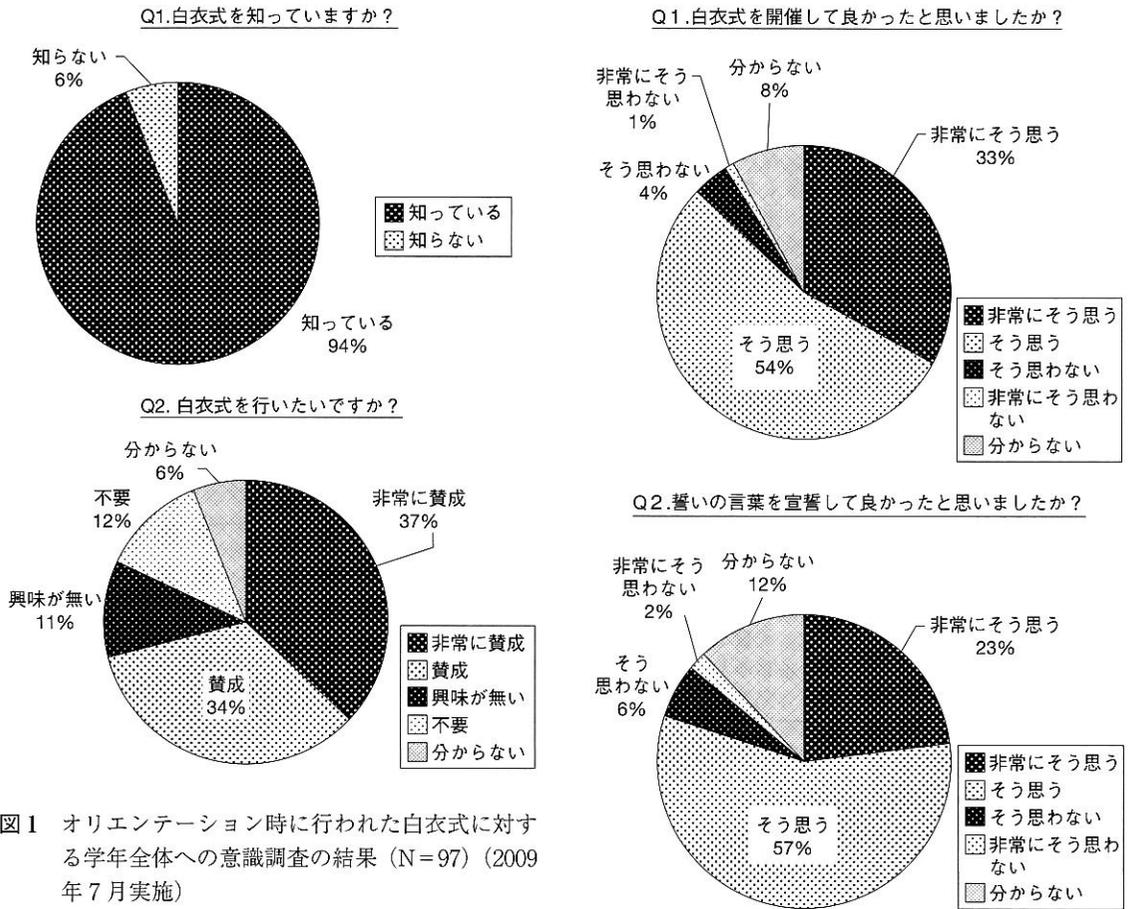


図1 オリエンテーション時に行われた白衣式に対する学年全体への意識調査の結果 (N=97) (2009年7月実施)

れた医師を構成する要素の一つと考えられた。

これらの結果を土台とし、白衣式実行委員会は、学年の総意として表2のような誓いの言葉を作成した。

白衣式後、2010年7月に実行委員の学生6名に対し行った、誓いの言葉プロジェクトについての感想・反省アンケートでは、「積極的に関われば、プロフェッショナリズム獲得のためのきっかけに成り得る」、「教育とするのであればもっと多くの学生を巻き込む必要がある」などの回答が得られた。

8月には、感想・反省アンケートにて実行委員から得られた意見を基に、学年全体に対し、白衣式・誓いの言葉プロジェクトについての意識調査を再度実施した。意識調査では、図2に示すように、白衣式については87%、誓いの言葉については77%の学生が行って良かったと答え、今後

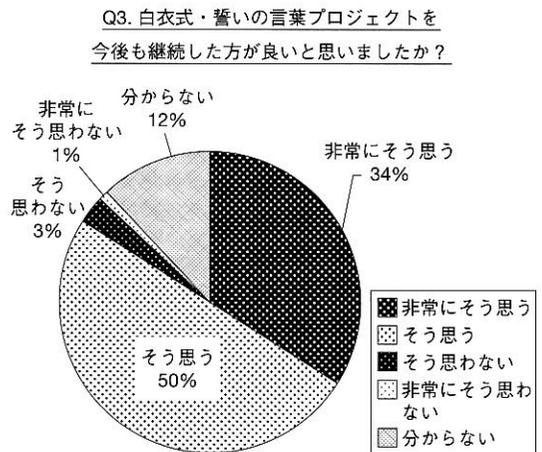


図2 白衣式後に行われた白衣式・誓いの言葉プロジェクトに対する学年全体への意識調査の結果 (N=97) (2010年8月実施)

表1 白衣式後に行われた白衣式・誓いの言葉プロジェクトに対する学年全体への意識調査の結果 (N = 97)
(2010年8月実施)

学年全体に対する実行委員から生じた意見についての意識調査	そう思う
・積極的に関われば、白衣式・誓いの言葉プロジェクトは、プロフェッショナリズムについて考えるきっかけと成り得る。	64%
・教育とするのであれば、もっと多くの学生を巻き込むようにした方が良い。	32%
・まだ実際の現場を知らないのに、臨床実習前の学生に誓わせても、それはあまり意味が無い。	10%
・多様な考え方の学生がいるのだから、全員の意見を一つの誓いの言葉にまとめるのは難しい。	28%
・(白衣式そのものについて) あまり深く考えず、入学式や卒業式のような通過儀礼として、あっても良いのではないか。	53%

*白衣式後、まず、実行委員の学生6名に対して、誓いの言葉プロジェクトについての感想・反省アンケートを記述形式にて記入させた。次に、それらの回答に含まれた意見を抜粋し、学年全体97名に対しても、同様にそう思うかどうかの意識調査を実施した。

表2 2009年度誓いの言葉

一人の人間として、患者さんと真摯に向き合います。
全てのスタッフと共により良い医療を目指し、新たな医学の開拓に努めます。
日々自らを省みて、研鑽を積み続けます。
心にゆとりを持ち、人間性豊かな医師になります。

も白衣式・誓いの言葉プロジェクトを継続すべきと答えた学生は84%となった。また、「積極的に関われば、プロフェッショナリズム獲得のためのきっかけに成り得る」、「教育とするのであればもっと多くの学生を巻き込む必要がある」という問いに対して、それぞれ64%、32%がそう思うと答えた(表1)。

考察

宮田らによれば、プロフェッショナリズムは、患者や社会からの信頼を得るべく、医師が最善の努力をし続けるという考え方や姿勢である³⁾。2009年度誓いの言葉プロジェクトの活動において、学生達が社会から求められている医師像について考え、かつ、それらを自分自身が目指す医師像と照らし合わせることで、優れた医師になろうと努力する姿勢は、プロフェッショナリズムに通じると考えられる。

しかし、白衣式において学生達が誓いを述べることについて、批判的な意見もある。一つは、まだ実際の医療現場を経験していない、臨床実習前の学生に誓わせたとしてもあまり意味が無い、も

しくは、実感を伴っていないという意見。もう一つは、多様な信条を持つ学生がいるのだから、全員の総意を一つの文章でまとめるのは難しい、という意見である^{4,5)}。これらについては、「誓うという行為」が最終的に何を目的としているか、その解釈が異なるために生じた意見だと考えられる。本学の誓いの言葉プロジェクトの活動においては、完成した言葉を絶対視し、なんとしても遵守させようという意図がある訳ではなく、誓いの言葉を考えるという過程そのものが、プロフェッショナリズム獲得のためのきっかけとして最も重要視されていた。

一方で、依然課題として残っているのが、学生にも指摘(表1)されている通り、如何にして一人でも多くの学生を誓いの言葉プロジェクトに、より深く関わらせていくかである。まずは、誓いの言葉プロジェクトを学生に浸透させ、その意義を理解させることが重要と言える。また、ただ一方的に与えられるだけが教育では無いから、学生達自身が、自ら主体的に周りに声を掛けて少しずつでも多くの人間を巻き込んでいくことも、地道だが確実な方法だと考えられた。

結 論

慶應義塾大学医学部での、白衣式における誓いの言葉プロジェクトは、プロフェッショナリズム教育の一環となることを期待して導入され、学生の側からも高い満足度を得ている。一方で、誓いの言葉プロジェクトを継続していくにあたり、如何にしてより多くの学生を積極的に参加させ、プロフェッショナリズムについて考えさせていくかが、今後の課題として挙げられた。

文 献

- 1) The Arnold P. Gold Foundation: White Coat Ceremony.

URL: http://www.humanism-in-medicine.org/index.php/programs_grants/gold_foundation_programs/white_coat_ceremony (accessed 7 January 2011).

- 2) Kao AC, Parsi KP. Content Analysis of Oaths Administered at U.S. Medical Schools in 2000. *Acad Med* 2004; **79**: 882-7.
- 3) 宮田靖志, 野村英樹, 尾藤誠司・他. プロフェッショナリズム教育の導入と具体化について. *医学教育* 2011; **42**: 123-6.
- 4) Huber SJ. The white coat ceremony: a contemporary medical ritual. *J Med Ethics* 2003; **29**: 364-6.
- 5) Veatch RM. White coat ceremonies: a second opinion. *J Med Ethics* 2002; **28**: 5-9.